

1 自己評価及び外部評価結果

(別紙4)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200888		
法人名	有限会社日本サポートリンク		
事業所名	色えんぴつ・四日市		
所在地	三重県四日市市赤堀1丁目6-2		
自己評価作成日	令和5年12月25日	評価結果市町提出日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/24/index.php?action=kouhvu_detail_022_kani=true&JigovsvoCd=2470200888-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	令和6年1月16日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設理念である「あなたらしく いつまでも」を職員全員が理解し、大切にしています。自立支援に向けた取り組みと同時に、“笑顔を作る介護”を大事にしています。季節を感じられる様に年中のイベントに力を入れ、楽しく過ごせる様にと考えています。健康管理においては、協力医療機関の方々の協力を得て、密に報告・相談を行い、必要時には専門医への受診にも繋げています。各担当者は毎月の様子を手紙にまとめて家族に報告をしたり、写真付きの事業所便りを年に4回発行しています。受診時の結果・その後の様子は都度細めにメールや電話で連絡を行い、家族との信頼関係を築いています。専門学校からの実習生を定期的に受け入れており、地域における介護に携わる人材の育成、地域ネットワーク構築の力になれる様努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

色えんぴつ四日市は近鉄四日市駅から1駅の商業地域にあり、1ユニットで9人の利用者が生活している。隣に小規模多機能の施設があり、災害時には協力体制が出来ている。ベテランの職員が多くコロナ禍においても施設長や管理者と協力し利用者が安心して過ごせるように寄り添った支援をしている。制限されてはいるが、餅つきや地域の祭りなど季節のイベントにも参加し、地域交流もできるだけ行っている。家族との連絡も密に取り合い、利用者と家族が疎遠にならないように努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目: 9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目: 11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目: 30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目: 28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+Enter)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「あなたらしくいつまでも」の理念に基づき、生活環境が変わってもその方らしく生活が出来る様に支援している。玄関には介護理念を、事務所には職員の倫理規定を掲示している。	玄関には理念を事務所には倫理規定を掲示している。10年以上勤務する職員が多く理念を理解し実践に繋げて支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的にお散歩時は近隣の方と挨拶を交わしている。昨年に続き地域の学童の子供達数名が施設を訪問して下さり、手書きの日めくりカレンダーや星形のストラップをプレゼントして頂いた。来年春にはダンスの慰問をして下さる予定もある。8月には諏訪太鼓の慰問があり、地域の方が来所し一緒に演奏を楽しむ事が出来た。	コロナ禍になって自治会の繋がりは少なくなったが、回覧板等で地域の行事を知ることができ、昨年は常盤まつりにも参加させてもらった。近所の学童保育の子供たちとの交流は続けている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護実習生の受け入れを行っており、認知症の方への理解や支援に携わる機会を持って頂ける様にしている。運営推進会議でも利用者様の様子について2ヶ月分の写真や動画をDVDにまとめて様子を見て頂いている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍ではアンケート形式での運営推進会議を行っていたが、本年5月からは以前の様に集合形式で行っている。日頃の取り組みや、ヒヤリハット・事故報告等を行っている。それらに対して参加者からの意見を聞いて業務や利用者のケアの参考とし、取り入れている。	コロナが5類になり集合形式の運営推進会議を開催する事が出来た。行政、家族、介護相談員等日頃の取り組みや課題に対しての意見交換が多く、サービス向上に繋げていけるよう努力している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	6月から介護相談員の受け入れを再開している。市役所、包括、介護相談員へ運営推進会議議事録、施設通信を届けている。必要時にはすぐに市の担当者様へ連絡を行い、報告や相談が出来る関係性が築けている。	コロナ禍になって中止していた介護相談員の受け入れを再開した。市役所の担当者とは密に連絡を取り合い、運営推進会議にも定期的に参加して貰っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に外部研修に参加し、3カ月に1回身体拘束等適正化委員会を開催し全職員が十分に理解し身体拘束のないケアに取り組んでいる。防犯の為夜間のみ施錠しているが、日中は開放しており自由に行き来が出来る様にしている。	定期的に外部研修（コロナ禍はリモート）に参加し、3ヶ月に1度身体拘束委員会を開催し職員間で理解し意識している。日中玄関の施錠はしておらず自由に出入り出来るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に外部研修に参加し、しっかり理解して取り組んでいる。会議で内容を報告・共有し、職員間で注意喚起している。特にスピーチロックについてはきちんとした知識がないと判断が曖昧になりがちで虐待に繋がる事も有る為、行動の制御や尊厳を否定する様な言葉を使わない様にしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護に関する外部研修に参加している。参加出来なかった職員には定例会議で研修内容を報告し、共有している。必要性が高い方には出来る限りの情報提供を行う様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には施設見学と面談、十分な説明を行っている。不安や疑問点等に対して聞き取りし、丁寧に返答をしている。その後、利用者とその家族にとって安心して利用出来ると納得して頂いた上で契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ対策で面会の機会が少ない事も有るが、家族から直接ご意見を頂く事は減っていたが、面会時のみでなく電話やメール等でも意見や相談を頂く機会が増えている。日頃から利用者からの意見等を聞き取り、生活の中で反映出来る様に努めている。	コロナ禍で家族の面会交流は少なくなったが、運営推進会議の議事録や【ちまき通信】を送り返信欄を設けて意見を聞くようにしている。家族とはメールやラインで繋がっており、何時でも意見をいう事が出来る。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から代表や管理者は職員とコミュニケーションを図り、意見交換や提案をしやすい環境作りに努めている。毎月の定例会議等で支援だけでなく様々な意見や提案が出来る機会を設けている。会議に参加出来ない職員は書面にて意見や提案が出来る様にしている。	社長とは年2回の個人面談があり、毎月のミーティング以外にも代表や管理者とは意見や提案が言いやすい環境である。ないと困る物は直ぐに用意し、あったらいいなはメリットデメリットを皆で検討して決めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が知識を更新しながら向上心を持って働ける様に、外部研修案内は常に掲示し、参加出来る様にしている。能力に見合った報酬を定めたり、見直すために自己評価や定期的な個人面談等を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修内容は提示し、様々な内容の研修が受けられる様にしている。研修後は報告書を提出し、目標や施設に取り入れたい事を会議で提案し、翌月の会議で進捗状況を報告、更に3カ月後に研修内容を振り返り、自己評価をしている。職員の悩みや力量を考慮し、適切な研修に参加出来る機会を設けたり、必要な研修やOJTも行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、他事業所との交流は少ないが、かかりつけ薬局との勉強会や介護相談員の受け入れ、Zoomでの研修等を通して他事業所との意見交換やアドバイスを頂く事が出来、サービス向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人、家族と面会を行い、要望や困っている事等を聞き取りして安心を得られる様に努めている。入居前に施設の雰囲気を感じて頂く為に、入居中の利用者方と自己紹介やコミュニケーションが出来る時間を設けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には本人、家族に面会と施設見学を行い、要望や困っている事等を聞き取りして安心を得られる様に努めている。加えて施設の方針、今後の支援について等をお話し、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や生活環境等を面会等で情報収集を行い、サービス導入を行う段階で、必要な支援を提供出来る様に努めている。その際に、他のサービス利用も提案している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々コミュニケーションを図る中で、様々な個性をもつ利用者と職員共に、共同生活を送る者として一方的でない関係作りが出来る様に努めている。利用者一人ひとりに無理のない範囲で役割を担って頂き、皆が支え合える関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居後は近況報告の手紙や施設通信を作成して本人の生活の様子を報告している。メール等も活用し、日々の生活の写真や動画、体調の変化や事故報告等、相談をこまめに行い、一緒に支えている状況や関係性を築けるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ感染症が第5類になり面会制限は緩和している。コロナ禍以前の様に頻繁な面会は無いが、手紙や電話、テレビ通話での面会等でも対応し、関係が途切れない様に努めている。	コロナ禍で疎遠になった馴染みの人との交流はむずかしくなったが、家族の面会は増えている。リモートでの面会も対応しているが、理解する事が出来る利用者がほとんどいないのが実情である。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	席のバランスに配慮し、基本的には利用者同士の関係は見守りをしている。レクやイベント時以外でも、洗濯物の片付け・おやつ作り等で、利用者同士で協力して参加して頂ける様に支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も相談があれば受け入れる体制を取り、必要があれば利用者や家族のケアに努めている。施設でお看取りした方の家族とメールや葉書のやり取りもあり、心に寄り添える様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々コミュニケーションを図る中で言葉で伝えられる方はその希望や意向を聞き取りしている。それが難しい方でも家族に聞き取りを行い、本人の過去の発言等も参考に本人の思いや意向を把握し、希望に添える様に努めている。	利用者の意向や希望はその都度聞き対応している。意思疎通がむずかしい利用者には態度や表情から読み取るよう心掛けしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前からの生活歴や生活環境に加え、これまでのサービス利用の経過等の情報収集を行っている。聞き取りを行った情報以外にもコミュニケーションを図る中で得た情報は家族と共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの過ごし方を観察、支援する中でその方の言動や表情等の些細な変化も記録している。記録だけでなく、口頭での申し送りや定例会議でも現状を情報共有し、その時々に応じた適切なケアが出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の定例会議にてケアカンファレンスを行い、参加職員全員で意見や提案を行っている。3ヶ月に1度モニタリングを行い、利用者や家族の意向や希望を踏まえて話し合い、ケアに反映出来る様に努めている。	介護計画書は基本1か年としているが、3ヶ月に1度のカンファレンスやモニタリングを行い、利用者や家族、協力医、職員の意見を聞き、都度見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	バイタルや排泄等は個々に記録し、それ以外にも日々の様子等を細かく記録し、口頭でも申し送りを行なう事で情報共有に努めている。カンファレンスで話し合った内容は記録ノートにまとめ、全職員が確認している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	コロナが第5類に移行したが感染対策を講じる為、人混みは避けながら、ドライブや専門医への受診対応等の外出支援は行っている。コロナ禍である時も利用者や家族の意向があり、法事へ参加して頂いた事もあった。今後も利用者や家族の要望があれば外出等は柔軟な支援が提供出来る様に努めていく。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩時や外気浴時には近くの保育園の方々との挨拶等は積極的に行い、馴染みの関係を築く事で安全で豊かな暮らしに繋がる様にしている。地域の文化祭に作品出展し、見学へ行き、地域の方とも交流を持つことが出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長期にわたり近くのかかりつけ医院の協力を得て必要時には電話で状態を報告、相談して受診に繋げている。受診困難時には往診にも対応して頂いている。受診内容等は家族に報告、相談する事で早期に適切な医療を受ける事が出来る様に努めている。	現在は全員が協力医に掛かっている。協力医に勤めている看護師が施設の非常勤職員として勤めており24時間何時でも連絡を取れるようにしてある。外部の医療機関受診にも希望者には職員が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、協力医院の看護師が勤務している。日頃の些細な体調の変化等に気づいた時は報告、相談している。必要時には主治医への報告や往診に繋がる様に連携を取っている。医師からの指示薬塗布後の経過観察もして頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に医療機関や家族と情報交換を行い、入院時にはアセスメントシート、支援手順書を渡している。可能な限り面会や電話で連絡を取り現状把握に努めている。退院後も安心して生活出来る様に医療機関との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時の段階で意向の聞き取りをしている。重度化や終末期の変化に合わせてその都度、事業所として出来る事を説明しながら、家族や主治医と話し合いを持ち臨機応変に対応している。必要時には訪問看護等のサービスも利用し、穏やかな最期を迎えられる様な支援に取り組んでいる。	原則「看取りありき」ではないが、入所時に本人や家族の意向を聞き、必要に応じて看取り介護は実施している。重度化した場合は都度、家族と話し合い協力医の指導のもと、寄り添った支援をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	常に見える所に救急、急変時の初期対応の流れを掲示して。同時に全職員に説明し把握している。緊急時には管理者や他職員に情報を共有し、相談やフォローが出来る体制を作っている。今年度は職員2名が緊急時対応についての研修を受け、研修内容は会議でも共有し急変や事故発生時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に計6回以上、地震、火災、水害、夜間等を想定し訓練を行っている。年に1回以上、防災用品や備蓄品の期限等を確認している。また定例会議や運営推進会議で定期的に話し合いを行っている。	年に6回、地震、火災、水害、夜間、昼寝時を想定し実施している。防災用品や備蓄品の期限を表にし、毎年確認している。停電の経験から発電機の設置もしてある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設の介護理念である「あなたらしくいつまでも」に基づき、個々の人格を尊重し、尊厳を傷つけない様に会話内容や声のトーン等に配慮している。スピーチロックについて正しい知識が学べる研修に全職員が参加している。	排泄時や入浴時、羞恥心やプライドを傷つけないように心掛けている。自室の出入りは常に自由で一人で過ごす時間も大切に、見守っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話や日々の生活から本人の希望を聞き取り、職員間で共有し自己決定に繋がる様に支援している。毎日午前中の水分補給時にはメニュー表を見ながら、コーヒーやココア、ミルクティー等の中から飲みたい物を用紙に書いて頂く取り組みを行っている。入浴の有無、休息の取り入れ等、日常生活の色々な場面で出来る限り個々の希望を取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常の大まかな流れや行事等はあるが個々の生活（入浴時間、お昼寝の有無等）はその都度聞き可能な限り個々の希望に添った支援を行っている。意思疎通が難しい方への配慮も怠らない様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的に毎日の整容や洋服はご自身の好みで選んで頂いている。必要時はその日の気候や体調にあった服装や着こなし方を一緒に考えたり、アドバイスを行っている。定期的にヘアカットに来て頂いており、髪型は鏡を見ながら本人の希望に添ってカットして頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を使ったり、温かい物は温かく、冷たい物は冷たい状態で美味しく食べて頂ける様に提供している。お誕生日にはその方の好物や食べたい物を用意している。季節の行事では、その季節に合ったおやつを用意し、視覚からも楽しんで頂ける様にしている。レクリエーションの一環として、利用者とおやつ作りを行っている。	基本朝食は事業所で作り昼食と夕食のメインは外注だが、ご飯と味噌汁は職員が作り温野菜を足したり栄養、量、味など十分考えられている。イベント時の食事や毎日のおやつは季節感を考え職員が手作りしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に合わせた食事形態、食事量、水分量に配慮し記録している。その時の体調等を考慮し、栄養バランスにも気を付けている。定期的に血液検査を行い栄養状態について主治医と相談しており、必要な方には栄養補助飲料を取り入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時と毎食後に歯磨きを取り入れ、口腔内の清潔が保てるように努めている。自分で磨く事が困難な方は勿論の事、自分で出来る方へのフォローも行っている。定期的に訪問歯科に診て頂き、治療や口腔ケア時のアドバイス等もして頂いている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間の排泄状況チェック表を活用し、利用者各々の排泄パターンの把握に努め、声掛けやトイレ誘導をしている。基本的に日中は全ての利用者が布パンツ(必要な方には尿取りパッドを使用)を着用して過ごして頂いている。	自立しているのは2人だが、24時間排泄チェック表を活用し、昼間は利用者全員がトイレでの排泄が出来ており、布パンツとパッドで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	24時間の排泄チェック表を活用して利用者それぞれへの支援を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	受診や行事がある日でも時間を調整して出来る限り入浴支援を行うようにしている。入浴の有無や順番は利用者の体調を考慮しながら、希望を聞いて決めている。入浴時は1対1でゆっくりと会話を持ちながら入浴の時間を楽しくて頂ける様に支援している。	湯船に入れるのは2人だけだが、シャワーや足浴を使い気持ち良く入浴を楽しめるよう工夫している。普段話さない利用者も職員との会話が弾み本音を聞くことが出来る貴重な時間である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ホールでTVを見ながらウトウトしたり、天気の良い日は玄関先に出て日向ぼっこをしたりと、ゆったりした時間が過ごせる様にしている。利用者に疲れた様子があれば、居室で休んで頂ける様に室温調整や準備、声掛けを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の準備でミスが起きないように職員2名でのダブルチェックを行い、服用時には利用者の名前・日時・錠数を声出し確認して、飲み込まれるまで見守りを行っている。症状の変化等は定期的に話し合いを行い、主治医や薬剤師と連携を図り報告・相談している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯畳みや食器拭き等、日々の生活の中で出来る事をして頂き役割の一つとして捉えている。朝の体操の後には、一人ずつコーヒーやココア等飲みたい物を選んで頂いて提供し喜ばれている。季節に応じた室内イベントを行ったり、外出やドライブに出かける事で気分転換を図り、楽しみを感じて頂ける様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は感染症対策として人混みへの外出は控えめにしている。ドライブに出かけ車外には出ずに車窓から風景を楽しんだり、混み合う時間帯を避けて公園等で季節の花を楽しめるように外出支援を行っている。	以前のように外食や買い物に出かけることはできないが、車窓ドライブを楽しんだり、天気の良い日は事業所の周りを散歩し季節を感じられるように支援している。正月は近所の神社に交代で初詣に出かけている。	利用者にとって外食や買い物は楽しみであり、24年度色えんぴつ活動計画書に沿って外出の機会を更に増やし気分転換を図られる事を期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族の同意を得て、一定金額のお金を所持して頂く事は可能としている。現時点では希望される方が見えない為、所持している方はいない。利用者の希望があればお金の所持や買い物時の支払いを支援したい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛けたいと希望される方には、その都度子機をお渡ししている。家族から荷物等が届いた時には電話で話が出る様に支援している。電話での会話が困難な方にはビデオメッセージ等を活用し、気持ちや表情を伝える事もある。手紙の返事を書く事が難しい方には折り紙を一緒に折り、同封する等して思いを届けられる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂ける様に利用者と一緒に作品を制作し展示している。快適に過ごせる様な空間を作る為、温度、明るさ等考慮している。ホールには新聞、雑誌、個々の湯呑等が手の届く所にあり、ご自分のタイミングで選択出来、居心地よく過ごして頂ける様に努めている。	玄関を入った壁に利用者職員全員の写真と自己紹介が貼ってあり、利用者や家族が何時でも名前の確認が出来る。リビングを中心に個室や台所、トイレなど動線が良く考えられている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでTVをみる方、気の合う方と雑談を楽しむ方、共用空間でウトウトしたい方、居室でTVを見たり、身体を休める方、おやつを楽しむ方、個々が思い思いに過ごせる場所、時間を持つ様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族と相談し、以前から使用している慣れ親しんだ物を持って来て頂ける様にお話している。居室には家族やペットの写真、ご自身で作った作品等を飾り、居室が居心地の良い空間になる様に配慮している。	入所時にベッドやタンスなど自宅から慣れ親しんだ物を持ち込まれている。テレビを設置している利用者もいて、好きな番組を自由に楽しんでいる。壁には作品や写真など思い思いに飾ってある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活用品はいつも同じ場所に置き、利用者のタンスには必要であればラベルを貼る事で分かり易くし、自立した生活が送れる様にしている。ADLの状態等を考慮し、安全かつ自立した生活が継続出来る様に定期的に検討し、安全な環境作りに努めている。		